

令和6年度

印西市民アカデミーだより

第10号

講座15：歴史散策② 結縁寺

9月28日（土）、毎年結縁寺のご開帳日に合わせて開催される本講座を実施しました。

コースは、船穂コミュニティセンター⇒①船尾宗像神社⇒②船尾白山神社⇒③名馬塚⇒④結縁寺・入定塚・熊野神社⇒⑤頼政塚⇒船穂コミュニティセンター(約4km)です。

① 福岡県宗像市に鎮座する**宗像大社**は、日本各地にある宗像神社の総本社で、日本神話に登場する日本最古の神社の一つです。祭神は、市杵島姫命、湍津姫命、田心姫命の三女神で、古くから各地に分霊が祀られており、現在約6,200社の神社に祀られています。印西近郷には印旛沼の北岸に、**船尾宗像神社**も含む13の宗像神社が集まっており、全国的にも特異な地域となっています。

② **船尾白山神社**は、地元では、「いぼ神さま」とも呼ばれています。体にできた「いぼ」を社殿に奉納されている左縫りの縄1本を借りてきて、この縄でこすると治るという伝承からこう呼ばれています。「いぼ」が治ったら、同じ左縫りの縄1本をお礼として奉納する習わしがあります。

③ 結縁寺の西南にあるのが、源頼政の首を運んできた馬を葬ったといわれている**名馬塚**です。塚の傍らには刻像塔や文字塔の馬頭観音が十数基あり、馬の好物の人参🥕がときおり供えられています。

④ 奈良時代初期、行基によって創建されたという**結縁寺**は、広大な寺域に六坊を有する大寺でした。寺名は、平安時代の天慶年間(938~946)に寺に入った真言宗の僧が、春秋二度の「結縁勧請」という仏縁を結ばせる儀式を行ったことに由来するといわれています。この本堂に安置されているのが、国の重要文化財に指定されている**銅造不動明王立像**です。国指定の文化財の不動明王の中で、銅造はこの像を含め3像しかなく貴重なものです。この像を手の届く距離で拝観できるのはここだけです。結縁寺の鎮守である**熊野神社**に登る手前にあるのが、頼政の遺徳を慕って、伊勢の国から訪れた女性が入定したと伝えられている**入定塚**です。塚には小さな石碑が建てられています。

⑤ 治承4年(1180)、平家打倒に挑んだ源頼政は、拳兵に失敗し、宇治平等院の境内で自害したといわれています。この頼政の首を埋めた場所として伝えられているのが、結縁寺の東南の山林にある**頼政塚**です。頼政は、死に際して家臣に「わが首を持って東国に向かい、首が重くなって動かなくなったところに塚を築いて首を葬れ」と遺言したとされており、家臣たちが東国に向かい急に首が重くなったところがこの辺りと伝えられています。

今回の講座は、「結縁寺ミステリーツアー」と題して、学芸員が作成した紙芝居を、自らが読み手となって現地を案内しました。紙芝居は、聞き手には絵の情報のみで、そこに読み手が説明に工夫を加えながら進行していくものです。聞き手は、絵を見ながら、読み手の声を聞き、想像を膨らませながら内容に没頭することができます。受講した学生からは「紙芝居で語られた史跡を実際に見学して、歴史の想像力をかきたてられた」、「歴史的背景をもとにしてのわかりやすい説明のおかげ



で、たくさんのミステリーを感じながら散策することができた」等の感想をいただきました。

